さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

校則見直し 自分たちで

都留一中 靴の規制緩和 生徒議論

都留一中の生徒たちが、校則の見直しに向けた議論を進めている。生徒会が中心となり、教員たちと交渉しながら、自分たちで納得できるルールづくりに取り組む。教員側も「主権者としての自覚を芽生えさせる上でも重要」と歓迎。目指すのは靴に関する規則の緩和で、13日に開かれる生徒総会での改正を目指している。〈赤池悠〉

校則の改正について議論する生徒たち　＝都留一中

校則の見直しについては、教員側の働きかけがきっかけで、10月上旬から議論を開始した。生徒たちには、校則は守らなければならないルールという固定観念が強かったといい、生徒会長の飯山優莉さん（3年）は「先生からの投げかけを受けて初めて、校則って変えられるものなんだと気付かされた」と話す。

生徒総会までの約2カ月間に着手できる範囲で考えた結果、通学時に履く靴を議題とすることにした。現状校則では、学校指定の白い靴を履く決まりとなっているが、足の形や幅が合わず靴擦れやけがをするなど、生徒によっては活動しづらい状況があったという。

そのため、校則による指定を撤廃し、安全面を考慮しながら、個々の判断で自分に合った靴を履けるようにするという原案にした。管理職も含めた教員側との話し合いも進めてきた。

11月27日には、各学級の代表に原案を提示し、意見を交換した。「厚底の靴は避けるべきだ」「色は中学生らしい色にした方が良い」などの意見が出た。クラスごとに議論する時間も設け、それらを参考に生徒会で見直し案を作成して、12月13日に開く生徒総会で採決する。

生徒会主任の橋本侑門教諭（27）は「生徒の自治活動として、自分たちで考えて、自分たちで決めたことをしっかり守っていくということがすごく大事」と意義を語る。飯山さんは「校則について議論するという機会が、今年だけじゃなくて、来年以降も継続してくれるといい」と話していた。

ぐんない

仲沢 篤志、武田 寛明、赤池 悠（富士北麓）飯野 柊平（大月・上野原）赤池 悠（都留）

（2023 年 12 月 13 日付 山梨日日新聞 17 面）

問1 都留一中の生徒たちが、校則の見直しに向けた議論を進めています。教員側は、その取り組みについて、どのように感じていますか。

.....

問2 今回は、どのような校則の変更を議論しましたか。また、その理由と変更内容も答えてください。

・今の校則 ： .....

・変更理由 ： .....

・変更内容 ： .....

問3 あなたの学校で、議論したい校則はありますか。あれば、その校則とその理由を書いてください。

・校則 ： .....

・理由 ： .....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.